

うまくありがとうとうって伝えたい

鳥取県 鳥取市立湖山小学校 六年

北本 遥煌きたもと はるき

ありがとうとうって難しい。ちゃんと伝わってるかなと確かめる事ではない気がするからだ。心からありがとう。口先だけのありがとう。僕が日常の中で使っている言葉は、どんな感じで伝わっているのかな。

僕は十歳離れたお姉ちゃんがいる。流行りの音楽、絵の描き方、英語やピアノ、色々教えてくれる。時に面白く、時に何気なく。離れて暮らすお姉ちゃんとの短い時間を、僕は大切に思っている。いわゆる仲良し姉弟だ。

友達は姉弟が仲良しなわけないって言う。僕の想像を絶する言い分は、

「顔を合わせれば四六時中、手も足も出る。けんかばっかりだよ。」

そんな経験したことないよって言ったら、「うらやましい。」って言われた。本当なのに。

例えばこんなエピソード。両親がお仕事でお留守番をした日お姉ちゃんが、

「お昼ご飯何がいい?」
「お昼ご飯だと思った僕は、」

「んん。お肉だけがいいなあ。」
「いやけ顔で言ってみた。あきれ顔のお姉ちゃんから返ってきた返事は、」

「じゃあ、簡単にすき焼き丼にしよっか。」
「やったー!野菜なし!!ありがとう!!」

「いや、ごぼうとねぎは入れるから。」

「・・・ですよねえ・・・」
材料そろえてねぎ切って。ごぼうのさがきジューっと炒

めてお砂糖バラリ。

「こうしておけばねぎとごぼうは甘くなるから、はる君でも食べやすいはずだよ。」

お姉ちゃんは上手だ。僕の喜ぶ事をしてから苦手そうな事をもってくる。のせられて頑張って、ほめられてできるようになる。

「アイスごちそうしてあげよっか?」
「ほらまた。僕の喜ぶ事をもってきた。」

「食べながら英語の練習もしよっか。」
「やっぱりな。また勉強か。でも、アイスが食べたい僕はうんって

言ってしまうんだ。そしていっぱいほめられる。上手にできたねって。ほっぺがムズムズするくらい照れくさい。

「ほめてくれてありがとう。」
「あ。今の気持ち、ちゃんと伝わったかな。」

「お姉ちゃん、いつもありがとう。」
「ポカーンとした顔のお姉ちゃんは、」

「どうしたの?急に。」
「なんかね、今までのありがとうとうってうまく伝わってない

気がして。」
「・・・そっか。大丈夫だよ。はる君の気持ち、ちゃんと伝わってるよ。ありがとうとうで感謝の気持ち伝えていってハッとした。ありがとうで感謝の気持ちを伝えていって思っ

ていた。お互いにとって事は、お姉ちゃんのおかげで僕自身もその思いに気づいて心が成長したよって伝えていっている事にもなるんだね。ありがとうとうって言い合える姉弟で良かった。これからもお互いの思いを、ありがとうを大切に伝え合えるといいな。